

## 第 17 回 日本 NPO 学会年次大会に参加して

CNCP 常務理事 有岡正樹

NPO 学会に入ったのは、2011 年だったと思う。NPO 法人「社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会（スリム Japan）」を立ち上げたものの、その活動の現実に疎く試行錯誤の連続であったが、同じころ土木学会「成熟したシビルエンジニア活性化小委員会」において NPO 法人をテーマにした調査・研究を担当して、建設系 NPO の‘存在感のなさ’を再認させられることになった。それから 6 年を経て本紙の母体である NPO 中間支援組織「CNCP」を設立するに至るが、その間少しは勉強しなければとの思いもあって他の分野の関連組織、セミナーや勉強会（残念ながら建設系ではその種の催し物はほとんどなかった）に参加し出したが、その一つがここで触れる「日本 NPO 学会」である。



その年次大会に最初に参加したのは、東洋大学目白キャンパスで開催された 2012 年の第 15 回大会であった。震災後 1 年を経て様々な視点での議論が展開されており、我々が津波がれき処理に関連して提案していた「Green Hill」構想が暗礁に乗り上げていたこともあって、何か得るものと藁にでもすがる思いであったのを憶えている。そんな縁を通して元学会長の山内直人阪大教授などと親しくなり、先生が主催される「市民社会研究会」等には出来るだけ出るようにしてきたし、写真に示す昨年大阪大学であった土木学会全国大会での研究討論会では、日本 NPO 学会からパネラーとして参画してもらったりもした（演壇男性が山内先生、右に着席は山本 CNCP 代表理事）。

昨年は関西大学で、そして今年は東京の武蔵大学で開催された。これまで震災復旧・復興に関わるセッションに多く参加したが、今年はほとんどその関係には顔を出さず、NPO 組織運営の諸問題、新しいファンドレイジング、ソーシャルインパクトボンド、行政改革、さらにはアドボカシーとメディアといったテーマを追いかけて行った。CNCP サービス提供部門担当として何か役立てば、との思いである。

2 日間の年次大会は A~G の 7 つのセッションに分けられており、このうちセッション C は 1 日目の午後 3 時間を使っての公開シンポジウムである。今年のテーマは「NPO は情報をどう使いこなすべきかー市民社会とビッグデータ、オープンデーター」で、それ以外の 6 つのセッションはそれぞれ 1 時間半、例えば A1~A5 といったサブセッションに分けられ、それぞれのテーマによって企画または公募パネルや、研究報告として成果が議論された。参加者はその一つのサブセッションを選んで議論に参加することになるが、1 時間半の間に 2 つのサブセッションを股にかける研究者も稀ではない。ただ、個々の参加者は 20 名程度であり、初日夕方の懇親会・学会賞表彰式でも 100 名程度と、研究対象としての NPO 分野が歴史的に新しく、世間の評価もまだまだ低いとの現状を再認したともいえよう。土木学会の全国大会とついつい比較してしまうのは酷なのかもしれない。

一方、「まちづくり」はともかく「インフラ・シビル」といった分野は話題にも上がらず、土木学会 100 周年記念図書「インフラ・まちづくりとシビル NPO」を 10 冊持参して、図書売り場に置かせてもらったが、売れたのは 2 冊のみといった低調さがその現実を物語っていた。こうした建設系以外の関連組織とも連携を深めながら、いずれはこうした学会で話題提供したりして、シビル NPO の活性化を図りたい。